

# 広報ちゅうざん

11月号 平成22年11月1日



## もくじ

地域リハにおける回復期リハの役割

二ページ

ノロウイルスについて

三ページ

口音障害について

四ページ

嗜好調査

五ページ

ちゅうざん祭りのお知らせ

平成二十二年九月入退院状況

六ページ

## 地域リハにおける回復期リハの役割

理事長・院長 今村 義典

十月二十一日から三日間「全国リハビリテーション・ケア合同研究大会」が山形市で開催されました。

沖繩から東北地方に出かけるので、时期的に気温など気にしながら、病院から研究発表等に七名の職員が参加しました。

合同研究大会の内容は、リハビリ治療から訪問リハビリ、老人デイ・ケア（通所リハ）などの地域リハビリに関わっている医師・看護師・介護福祉士・リハビリスタッフ・ケアマネージャー・市町村の保健師など多職種による医療・介護・福祉・行政に関わるリハビリ全般の研究発表であります。

その他にも講演やシンポジウムが多数組まれていました。

例えば、医師出身の二名の参議院議員による医療・福祉の今後についてのシンポジウムや厚労省老健局課長による介護保険の動向についての講演、海外からはデンマークの高齢者福祉についての講演など参考になる内容が多々ありました。

日常、回復期リハから地域リハに長年関わってきて、「住み慣

れた地域で安心した人生を送る」ことの大切さから、在宅復帰を積極的に勧めています。地域リハについての研修会も開催されますが、言うは易く、行方は難しの感が地域によってあります。

障害者や高齢者が、より快適に生活するには、少しでも生活能力の改善が大切です。大抵の方のリハビリ治療の目標に、最低で最大の希望は「トイレに自分で行けるようになりたい」とよく言われます。認知機能、移動の自立、着衣の上げ下げなどの身辺動作の獲得、他人を気にせずにトイレに行ける、オムツからの開放など人間性の尊厳の配慮など、大変、基本的なことばかりです。回復期リハ治療は、リハの原点で、能力を最大限に回復させ、残存機能や補装具などの代償機能訓練を徹底して行い、可能な限り基本動作を獲得して、初めて地域リハの支援を利用し、地域で自分らしい人生の継続を可能にさせることが地域リハです。

山形の帰りに、俳人松尾芭蕉が「静けさや岩に染みいる蝉の声」と詠った、険しい崖に建つ有名な山寺（立石寺）を車窓から眺め、昔の人は、自然の険しいバリアを人生・修行に利用したが、高齢化社会の現代人にとって、この近寄りがたいバリアは何を訴えているのだろうか、リハ医として考え込んでしまいました。

# 嗜好調査結果

栄養課 管理栄養士 宮城将允

今回、患者さんやの嗜好の把握と今後の献立作成の参考のため、嗜好調査を行いました。

【方法】聞き取り調査

【対象】入院患者

(男39名、女58名 平均年齢72.8歳)

【結果】味・温かさについて7割以上の満足度が得られました。

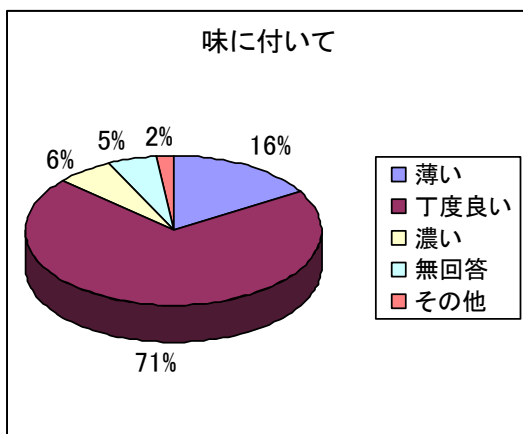
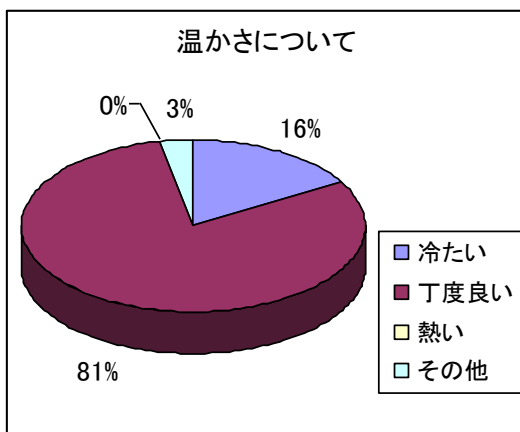
【まとめ】

味付けについては、丁度良いが71%、薄いのが16%でした。最初は薄いと感じたが、薄味になれたという方が多くもいました。今後も減塩食への理解を求めるとともに、調理法などの工夫に努めていきます。温かさについては、冷たいが16%、丁度良いが80%でした。配膳方法などを検討し、より温かい食事

を提供できるよう努めていきたいと思えます。

また好きなメニューは、カレーライスやそば、肉料理等でした。嫌いなメニューは、オクラ、魚料理等でした。

今回、調査を行うことで様々な意見を伺う事ができました。すべてにお応えすることは難しいですが、より満足して頂ける食事の提供が出来るよう日々努力していきます。調査へのご協力ありがとうございました。



# 構音障害について

言語聴覚療法科 玉城慶大

構音障害とは、発音の操作が困難になる事によって、「発声・発音」が正しくできない状態の症状をいいます。その構音障害も原因によっていくつかに分類されます。

一、**運動障害性構音障害**：脳卒中等によって、肺（呼吸）・下顎・口・舌等の発音に関する筋肉や神経が損傷され、筋力低下や運動コントロールなどの問題が生じた場合に起こる構音障害。

二、**器質性構音障害**：発声や発音における器官が形態上の異状によって引き起こされる構音障害。（舌切除後や口蓋裂、舌小帯短縮症に伴う構音障害などが挙げられる。）

三、**機能的構音障害**：発音方法を誤って学習してしまった状態で、主に就学前にみられる構音障害。

当院で最も多く扱う構音障害としては、脳卒中による筋力低下や麻痺の影響で神経がうまく活動しない為に引き起こされる、運動障害性構音障害が挙げられます。更に、運動障害性構音障

害は麻痺の状態に伴って五つのタイプに分類できます。「痙性」「弛緩性」「失調性」「運動低下性」「運動過多性」があります。それぞれのタイプによって、口や舌などの運動、話す速度の調整などを行い、聞き取りやすい話し方になるようにリハビリを行います。

当院では、個別訓練のリハビリに加え、退院後の生活に対応出来るよう「集団訓練」のリハビリを行っています。退院後の環境を見越す事で、コミュニケーション能力の向上を目指しています。

## 構音障害患者への接し方

- ※ 文字を活用していく。
- ※ 聞き取れないのに、わかったふりをしない。
- ※ 短く、ゆっくり言ってもらおう。
- ※ 姿勢が不安定だと話しづらい為、話しやすい姿勢にする。

## ノロウイルスについて

ノロウイルスとは、非細菌性急性胃腸炎を引き起こすウイルスの一種です。流行は十一月〜一、二月がピークで、酸・アルコール・熱・低温・塩素・乾燥にも強いのが特徴です。

《症状》腹痛・下痢、嘔気・嘔吐などがあり、特に嘔吐が突然、強烈に起きるのが特徴です。ウイルスに感染し発症する率は七〇〜四〇%で、不顕性感染（感染して下痢症状等はなくウイルスを排出している場合）が三〇%ほどあると言われています。冬期に、家族や職場の同僚が下痢症状を起こしているときは、自身も感染している可能性があることを意識しましょう。

《感染源》一番多いのがカキやその他の二枚貝（シジミ、アサリ、ハマグリ等）です。カキは加熱を十分行い（85℃1分以上）、加熱用のカキは生で食べないようにならねばなりません。また調理により食品や飲料水が汚染された場合や井戸水が原因となることもあります。感

染が疑われる場合は素手で調理を行わないようにし、なるべく調理を避けるようにしましょう。

### 《予防対策》

- 施設を出入りする際や、排便後、食前に徹底した手洗いを行いましょ。手洗後は手ぬぐいを用いず、ペーパータオルを使用しましょ。
- トイレ、トイレの蓋、ドアノブ、手すり、娯楽室内などの多くの人に触れるものは毎日消毒を行いましょ。

- 下痢便、吐物の処理時には必ずマスク、手袋など保護具を着用しましょ。
- 汚物処理室、洗濯室等の汚染物が存在するところには専任の人のみ入室し、他の人は入らないようにならねばなりません。また室から出るときは手洗い、手指の消毒を行いましょ。
- 室内の消毒は七〇%エタノールで浸すように三回拭くとよいでしよ。

手洗いは最重要の予防対策です！



# ちゅうざん祭り お知らせ

台風により、ちゅうざん祭りが十一月七日に延期しました。

午後2時～

通所リハビリステーションにて

舞台や催し

1階訓練室にて

リハビリ用具などの展示会

中庭にて

バザーや出店を予定しています。

午後3時～

各階や正面玄関にてちゅうざん職員によるエイサー  
があります。

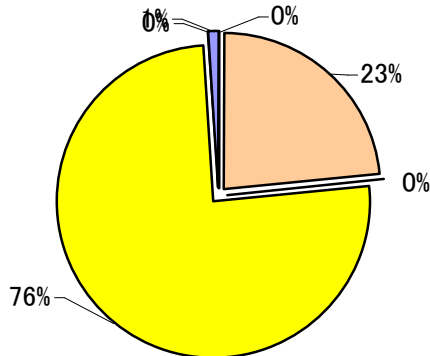
ぜひお越しください。



## 平成22年9月 入退院状況

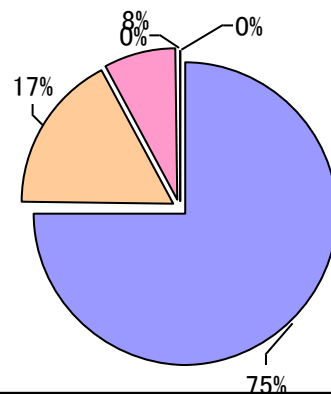
入院患者数81名

- 公立病院等(南部)
- 公立病院等(中部)
- 公立病院等(北部)
- 民間病院等
- ショートステイ
- 自宅



退院患者数64名

- 自宅
- 老健
- 転院
- その他
- 施設入所



ちゅうざん病院 〒904-2151 沖縄市松本6丁目2番地1号  
電話:982-1346 FAX:982-1347 「広報ちゅうざん」